

答え合わせ・解説

問1	答え 4 大西洋	大西洋は南北に長く伸びた形をしており、その海底には中央海嶺と呼ばれるS字状に連なる巨大な海底山脈が存在します。これは大陸プレートが動いている証拠でもあります。北側は北極海と、南側は南極周辺の海とつながっており、古くからヨーロッパとアメリカ大陸を結ぶ航路として重要な役割を担ってきました。
問2	答え 2 赤道	赤道は、緯度を測る際の基準となる「緯度0度」の線です。地球を北半球と南半球に二等分しており、太陽光が最も強く当たる場所として、世界の気候区分を理解する上での中心的な役割を果たしています。
問3	答え 1 モンスーン	この風をモンスーン（季節風）と呼びます。夏には海から湿った空気を伴う風が吹くため、多くの雨をもたらす。稲作などの農業に適した環境を作り出します。一方で冬には大陸から乾いた風が吹き、乾燥する地域が多いのが特徴です。この風は人々の暮らしや農業活動に非常に大きな影響を与えてきました。
問4	答え 3 サハラ砂漠	サハラ砂漠は、アフリカ大陸北部の大部分を占める世界で最も大きな砂漠です。一年を通して雨が極めて少なく、乾燥した気候が続いています。かつては緑豊かな地域であった時期もあるとされ、現在もわずかなオアシスを中心に人々が暮らしています。この砂漠を境に、北側の地域と南側の地域で異なる文化や歴史が育まれてきました。
問5	答え 3 モンスーン	モンスーン（季節風）は、夏は海から大陸へ、冬は大陸から海へと半年ごとに風向きが逆転する現象です。特にインド洋北部や南アジアでは、夏に多量の湿った空気が運ばれることで大雨を降らせ、農業に不可欠な水をもたらす一方、冬は大陸からの乾燥した風が吹きます。
問6	答え 2 黒潮	黒潮は、太平洋の西側を北上する強力な暖流です。その名の通り、プランクトンが少なく透明度が高いため、濃い青色（黒く見える）をしているのが特徴です。この海流は熱帯地方の熱を日本付近まで運び、周辺の気温を上昇させます。
問7	答え 1 日付変更線	この線は、ほぼ経度180度の経線に沿って設定されています。この線を東から西へ超えるときは日付を1日進め、逆に西から東へ超えるときは1日戻す必要があります。これにより、世界中で日付がバラバラになることを防いでいます。
問8	答え 2 太平洋	太平洋は東西に長く、アジア、オセアニア、南北アメリカの各大陸に囲まれています。海溝と呼ばれる非常に深い場所があり、マリアナ海溝などは地球上で最も深い地点として知られています。多くの島々が点在しており、気候や海流が世界の天候に強い影響を与えています。
問9	答え 2 ゴンドワナ大陸	ゴンドワナ大陸は、南半球を中心に広がっていた巨大な大陸です。長い時間をかけて分裂し、現在のアフリカ大陸やオーストラリア大陸、南アメリカ大陸などが形成されました。このため、これらの地域には共通の地質や、非常に似た特徴を持つ生物の化石が見つかることがあります。
問10	答え 1 中央海嶺	大西洋のほぼ中央を南北に走る巨大な山脈で、プレート同士が離れていく境界線に位置しています。地下からマグマが上昇して新しい地殻が次々と生成される場所であり、火山活動や地震も活発です。
問11	答え 1 経度180度	本初子午線（0度）のちょうど反対側にあたるのが経度180度です。この線付近に日付変更線が引かれています。ただし、同じ国の中で日付が分かれないう、一部の島々を避けるように線が曲げられています。
問12	答え 4 昭和基地	昭和基地は、1957年に東オングル島に建設されました。日本はこの拠点を中心に、気象観測、地質調査、大気現象の観測、さらには生物や生態系の研究を長年継続しています。過酷な環境下での活動を支えるため、日本の技術力が結集されています。
問13	答え 3 グリニッジ天文台	1884年の国際会議で、ロンドン郊外のグリニッジ天文台を通る子午線を本初子午線（経度0度）とすることが決定されました。ここが世界の時刻と位置の原点となりました。
問14	答え 1 本初子午線	本初子午線は、経度0度として定義された経線です。イギリスのロンドン郊外にある旧グリニッジ天文台を通るように設定されました。この線を基準にして、東側は東経、西側は西経と分類されます。
問15	答え 2 乾燥帯	乾燥帯は、砂漠などの降水がほとんどない地域から、わずかに草が生えるステップ気候までを含みます。オーストラリア大陸の内陸部では、広大な砂漠や岩石地帯が広がっており、人が住むのには厳しい環境となっています。